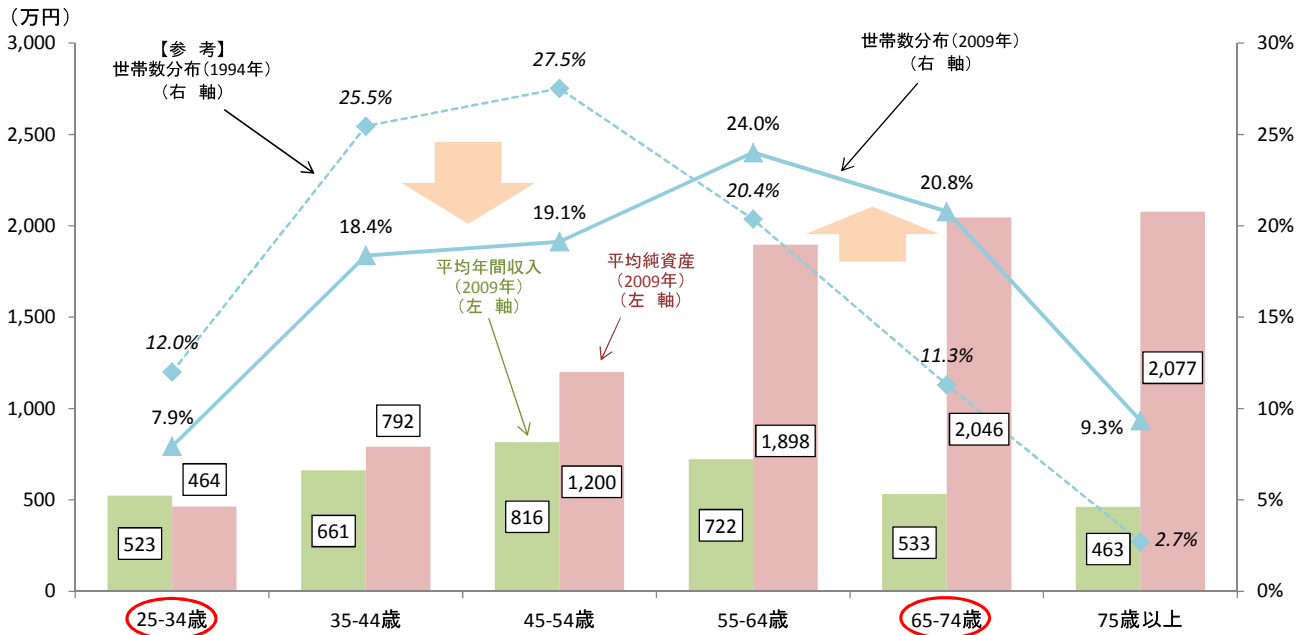


年齢階級別 平均年間収入、平均純資産の比較(二人以上の世帯)(2009年) 資料5-1

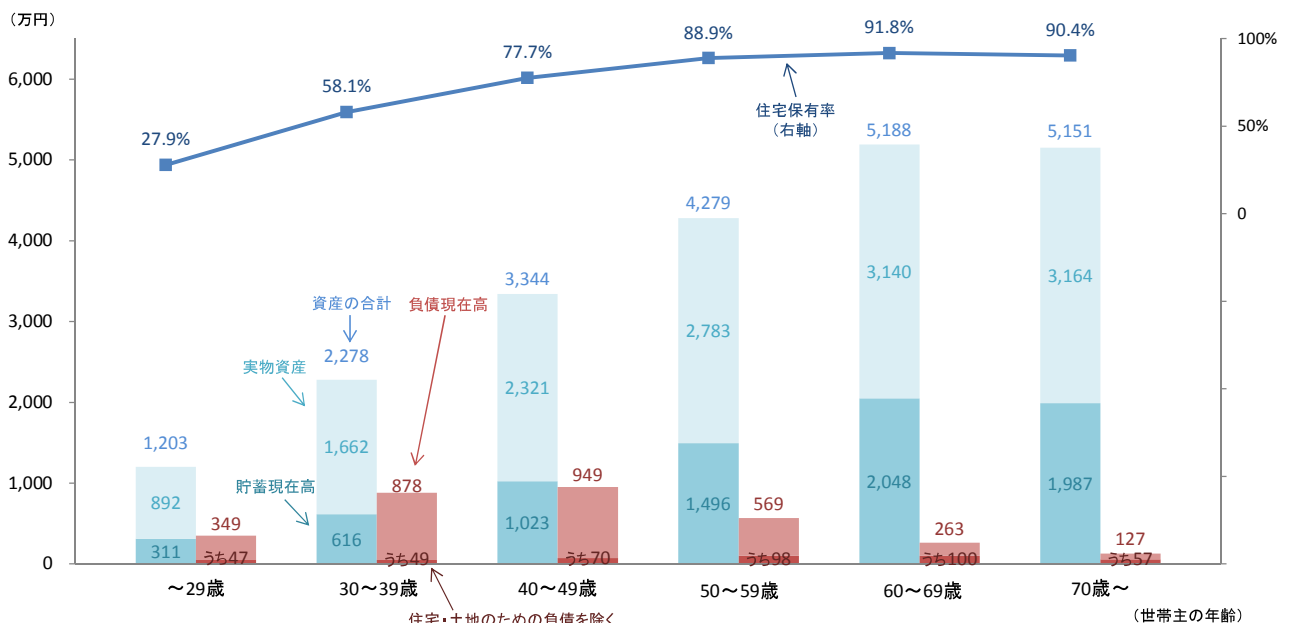
- 若年世帯は収入、資産ともに少ない一方、高齢者世帯は資産が多い。
- 高齢化が進み、資産を多く保有する高齢者世帯の割合が増加。



(出所)総務省「全国消費実態調査」
 (注)「純資産」は、貯蓄現在高から負債現在高(住宅・土地のための負債を除く)を控除したものである。

年齢階級別 実物資産・貯蓄現在高、負債現在高の比較(二人以上の世帯)(2009年) 資料5-2

- 世帯主の年齢が上がるにつれて、住宅保有率の上昇などにより実物資産が増加し、貯蓄現在高と実物資産の合計も増加。
- 他方、負債現在高は、住宅ローンなどにより40~49歳までは増加傾向にあるが、50歳以降においては減少。



(出所)総務省「全国消費実態調査」
 (注)資産の合計は、実物資産と貯蓄現在高の合計。
 (注)負債現在高は、住宅・土地のための負債を除く負債現在高(内数)。

年間収入階級別 世帯数分布(二人以上の世帯)(1994年→2009年)

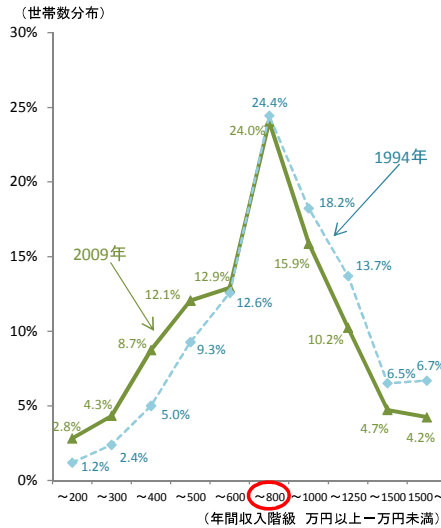
資料5-3

- 若年世帯の年間収入の最頻値は400～500万円から300～400万円に変化。400万円未満の割合が増加し、400万円以上の割合が減少。
- 壮年世帯の年間収入の最頻値は600～800万円に変化なし。500万円未満の割合が増加し、800万円以上の割合が減少。
- 高齢者世帯の年間収入の最頻値は300～400万円に変化なし。300～500万円の割合が増加し、700万円以上の割合が減少。

若年世帯(二人以上の世帯)



壮年世帯(二人以上の世帯)



高齢者世帯(高齢者夫婦世帯)



(出所) 総務省「全国消費実態調査」

(注1) 若年世帯は「二人以上の世帯(世帯主の年齢が30歳未満)」。

(注2) 壮年世帯は「二人以上の世帯(世帯主の年齢が30～59歳)」。

(注3) 高齢者世帯は「高齢者夫婦世帯(夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯)」。

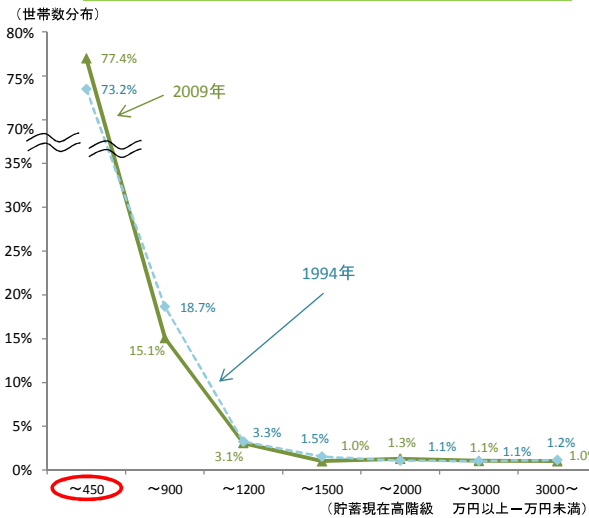
(注4) 若年世帯の年間収入階級1250万円以上については割合が少ないことから省略している。

貯蓄現在高階級別 世帯数分布(二人以上の世帯)(1994年→2009年)

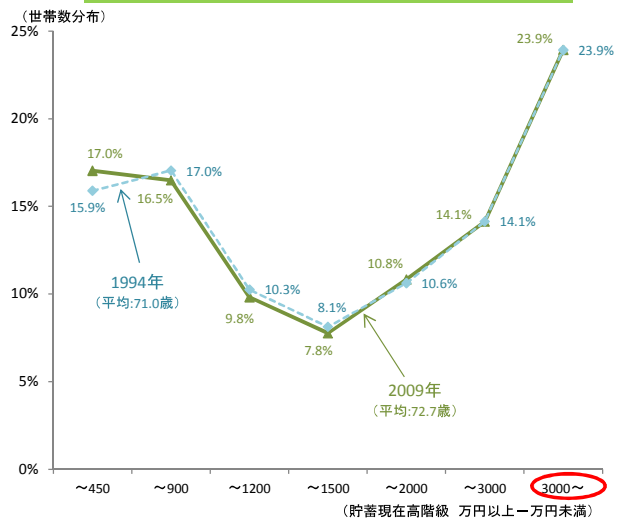
資料5-4

- 若年世帯は、貯蓄現在高450万円未満の割合が最も多い。1994年と比べて、450～900万円の割合がやや減少し、450万円未満の割合がやや増加。
- 高齢者世帯は、貯蓄現在高3,000万円以上が最頻値であるが、一方で、2番目は450万円以下となっている。1994年と比べて、貯蓄現在高450万円未満の割合がやや増加。

若年世帯(二人以上の世帯)



高齢者世帯(高齢者夫婦世帯)



(出所) 総務省「全国消費実態調査」

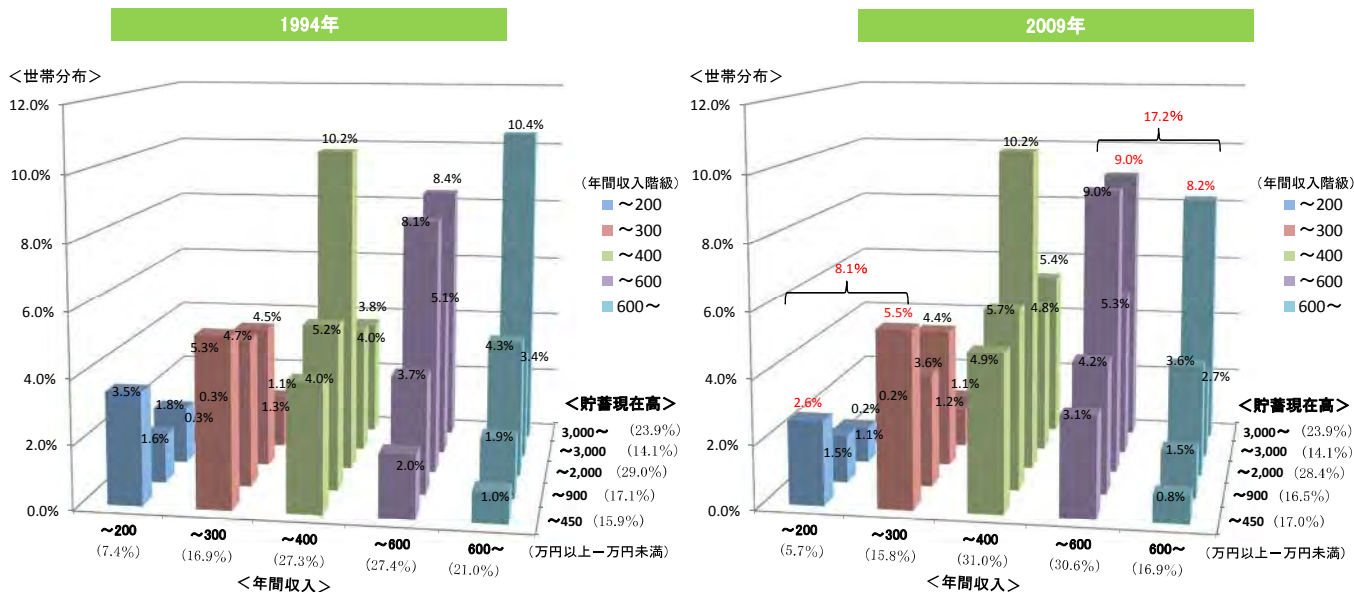
(注1) 若年世帯は、「二人以上の世帯(世帯主30歳未満)」。

(注2) 高齢者世帯は、「高齢者夫婦世帯(夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯)」。

年間収入階級別・貯蓄現在高階級別 世帯数分布(高齢者夫婦世帯)(1994年→2009年)

資料5-5

- 年間収入が多い／少ない層ほど、貯蓄現在高が多い／少ない傾向にあり、2009年においては、年間収入400万円以上かつ貯蓄現在高3,000万円以上の割合が17.2%である一方、年間収入300万円未満かつ貯蓄現在高450万円未満の割合は8.1%となっている。
- 1994年と比較すると、分布の構造に大きな変化は見られないが、貯蓄現在高450万円未満の割合が増加。

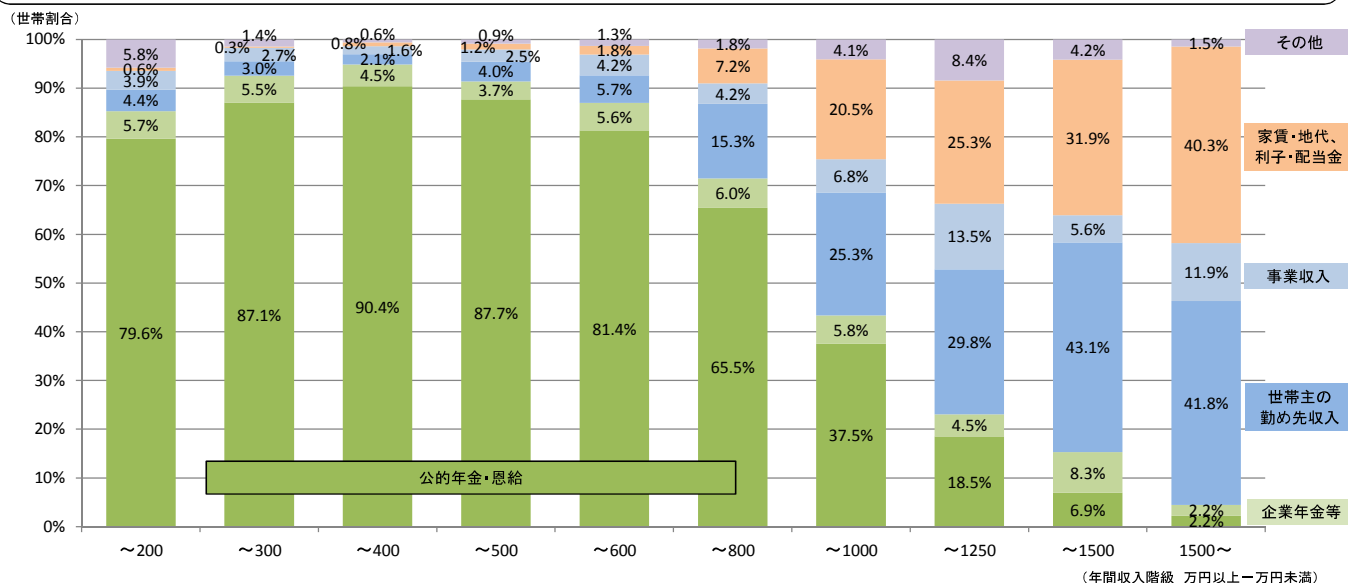


(出所)総務省「全国消費実態調査」
 (注)高齢者夫婦世帯は、夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯。

年間収入階級別、主な年間収入の種類別 世帯分布(高齢者夫婦世帯)(2009年)

資料5-6

- 年間収入600万円未満では「公的年金・恩給」を主な収入とする世帯が大宗を占めるが、年間収入600万円以上では、「勤め先収入」や「家賃・地代、利子・配当金」等の割合が増える。

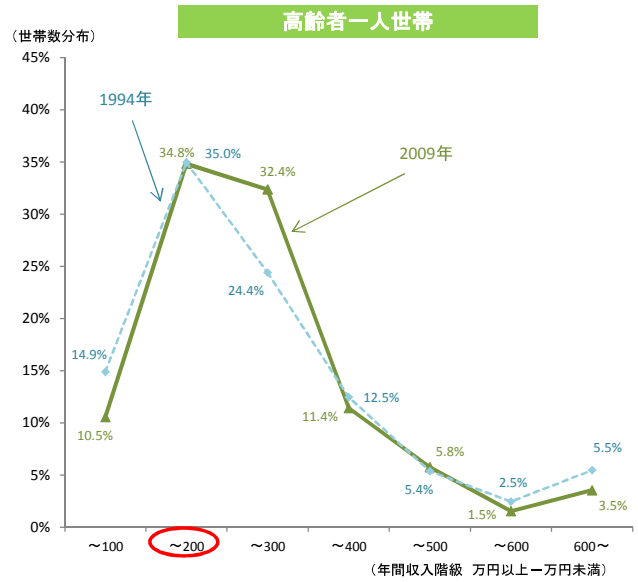
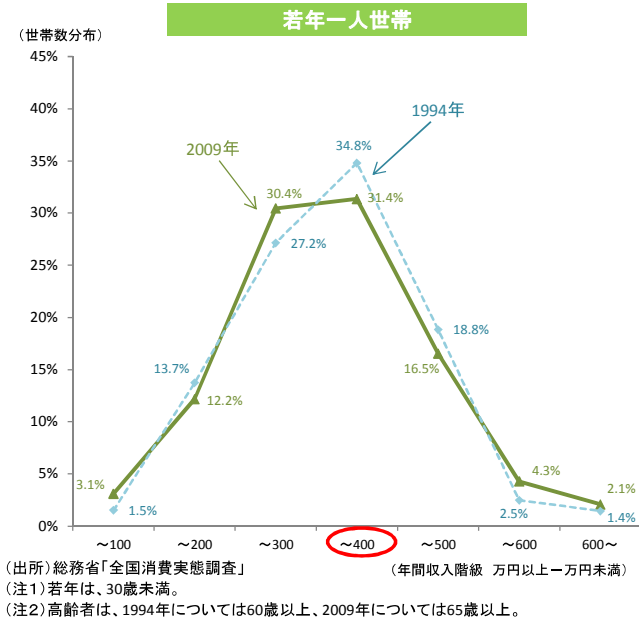


(出所)総務省「全国消費実態調査」
 (注)高齢者夫婦世帯は、夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯。

年間収入階級別 世帯数分布(一人世帯)(1994年→2009年)

資料5-7

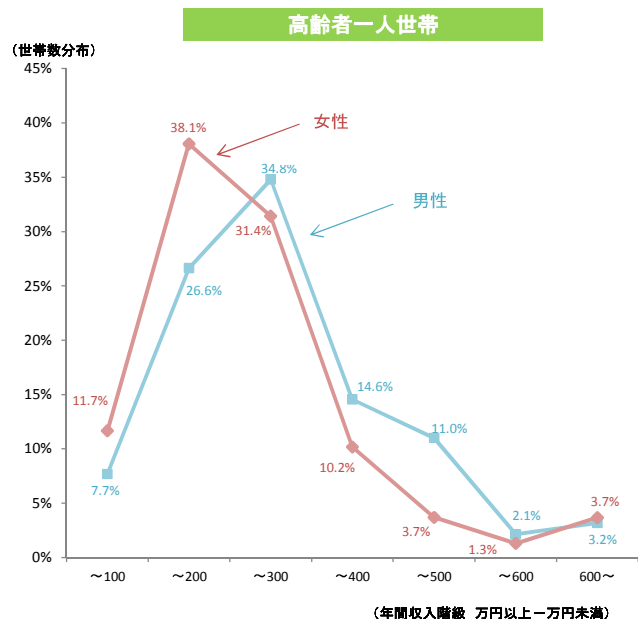
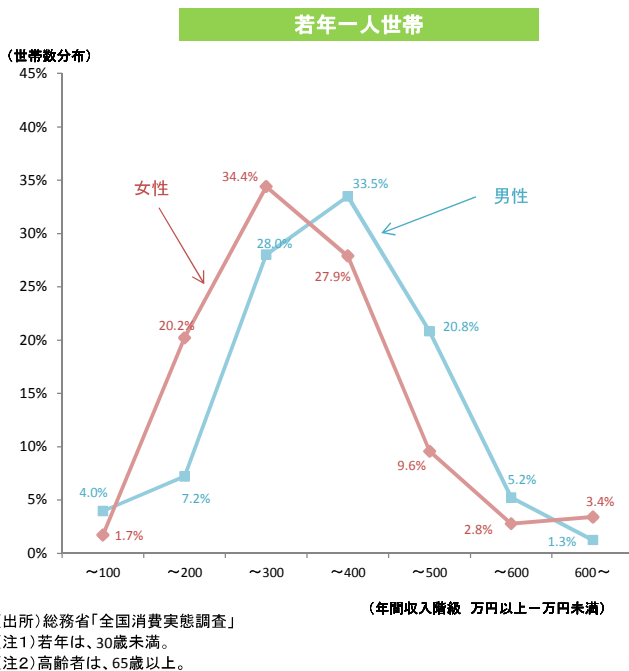
- 若年一人世帯は、1994年と比べて、年間収入の最頻値は300～400万円に変化ないが、200～300万円の割合が増加し、300～500万円の割合が減少。
- 高齢者一人世帯は、1994年と比べて、年間収入の最頻値は100～200万円に変化ないが、200～300万円の割合が増加し、100万円未満や500万円以上の割合が減少。



年間収入階級別 世帯数分布(一人世帯)(男女別)(2009年)

資料5-8

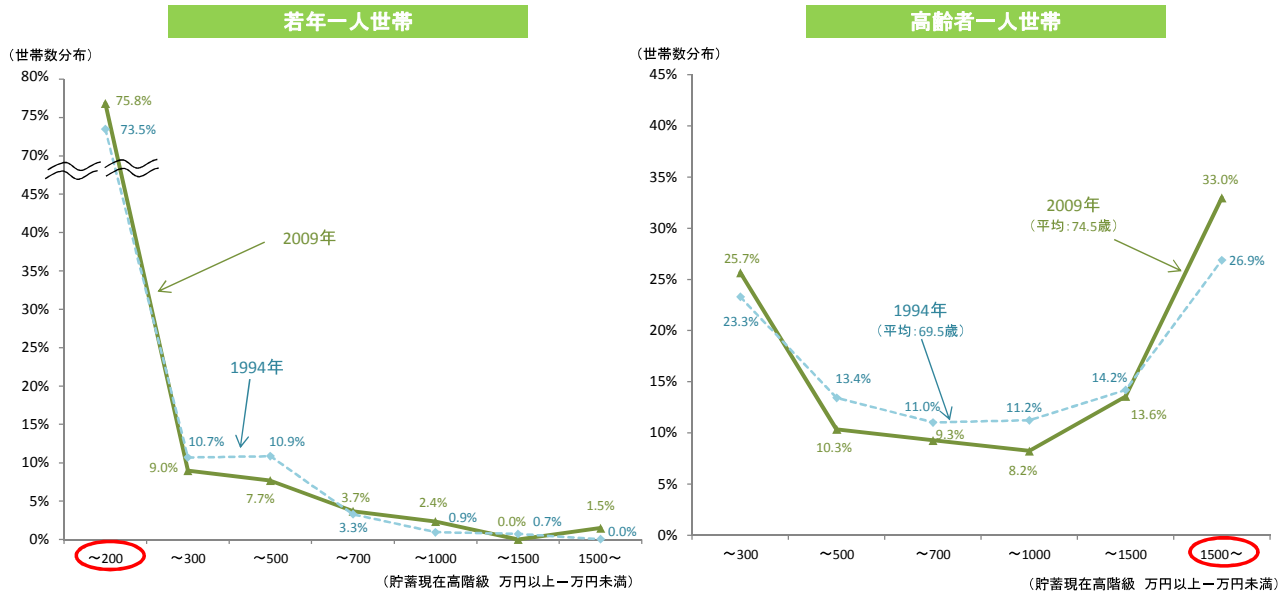
- 若年一人世帯のうち女性は、男性と比べて、年間収入100～300万円の割合が多い。
- 高齢者一人世帯のうち女性は、男性に比べて、年間収入200万円未満の割合が多い。



貯蓄現在高階級別 世帯数分布(一人世帯)(1994年→2009年)

資料5-9

- 若年一人世帯は、貯蓄現在高200万円未満が最頻値。1994年と比べて、最頻値は200万円未満で変化ないが、その割合は増加。
- 高齢者一人世帯は、貯蓄現在高1,500万円以上が最頻値であり、2番目は300万円以下となっている。

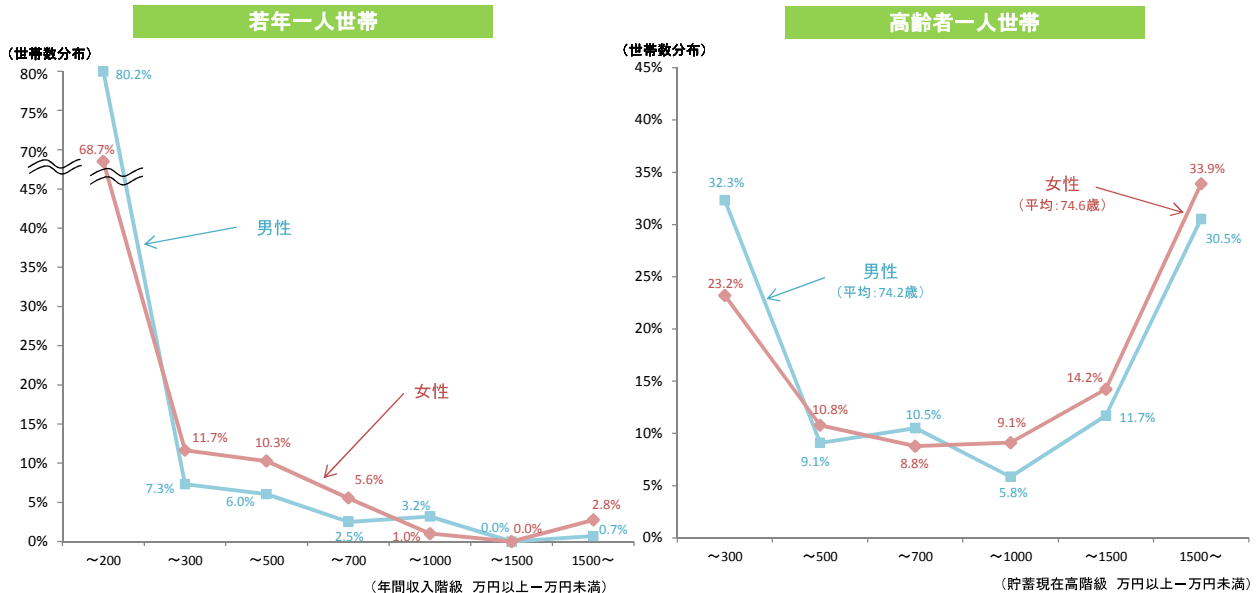


(出所)総務省「全国消費実態調査」
 (注1)若年は、30歳未満。
 (注2)高齢者は、1994年については60歳以上、2009年については65歳以上。

貯蓄現在高階級別 世帯数分布(一人世帯)(男女別)(2009年)

資料5-10

- 若年一人世帯のうち男性は、200万円未満の割合が高くなっている一方、女性は200~700万円の割合が高くなっている。
- 高齢者一人世帯のうち男性は、女性に比べて、300万円未満の割合が多い。



(出所)総務省「全国消費実態調査」
 (注1)若年は、30歳未満。
 (注2)高齢者は、65歳以上。